

## 1 管理状況

### ○ 適切な管理の履行

#### ・ 人員配置

施設内に管理運営、警備、清掃、設備を担うスタッフを適切に配置し、お客様対応、施設の不具合などに適切かつ迅速に対応。

#### ・ 人材育成の取組

東京2020大会開催に備えたサイバーセキュリティ研修や、法令順守のためのコンプライアンス研修、人材育成研修などを適宜実施。また、安全性の観点から上級救命認定の資格を取得。

#### ・ 施設の維持管理、使用許可、補修、修繕等

東京都関係者と密な連絡、調整、連携し、補修・修繕を実施。特に、東京都による大規模改修工事は、開館したまま施工・コロナ禍の影響により、スケジュールや工事範囲が頻繁に変更になるなか、東京都及び定期船運航事業者、工事業者等と定例的・綿密に打ち合わせを実施し、テナント事業者と利用調整を図り、使用許可の細かな切り替え等フレキシブルな対応により、ターミナル機能の維持・円滑な工事進捗に寄与した。また、大規模改修に合わせて、パンフレットラックの設置を行うなど、積極的な施設改修により、施設の利便性向上に取り組んだ。

#### ・ 警備体制

一体管理している合築ビル及び近隣ビルとも連絡体制を確立。警察署、海上保安部、利用船社等と連携して、定期的な意見交換のほか、防犯の観点からの施設点検、災害時対応訓練、合同警戒訓練や次年の東京2020大会に備えテロ対策訓練等を実施。



### テロ対策訓練



#### ・ 施設の清掃等

日常、定期清掃を計画的に着実に実施。

特に、島しょ部の窓口としての役割を担っているため施設内でのコロナ感染症まん延を防止するため、消毒液等が手薄な時期から先手を打って消毒液を確保し、消毒清掃を毎日実施。

### ○ 安全性の確保

#### ・ 事故等への対応

①緊急時アクションマニュアル、救急ファイルの整備

②緊急時アクションマニュアル実証訓練の実施

③常勤職員は上級救命技能認定取得(再掲)

④AEDなどの救急用品・器具の点検等

・防災・防犯体制強化に向けた取組

- ①発災時に、迅速かつ適切に対応できるようマニュアルを作成し、適宜見直しを実施。
  - ②一体管理している合築ビル及び近隣ビルとも連絡体制を確立。(再掲)
  - ③警察署、海上保安部、利用船社等と連携して、防犯の観点からの施設点検、災害時対応訓練、合同警戒訓練や次年の東京2020大会に向けテロ対策訓練等を実施。(再掲)
  - ④常勤職員は上級救命技能認定取得
- 以上により、非常時・緊急時に備えている。



災害時訓練



施設点検

・緊急時対策

- ①事務及び技術スタッフによる施設点検を毎日実施し、施設の安全確保に努めた。
  - ②類似施設管理部署と共通点検マニュアル作成し、改善状況確認や不具合箇所の早期発見につなげた。
  - ③自主事業で救済ベンダー機能付き自動販売機を設置。
- 以上により、事故防止及び施設保全に努めるとともに、非常時体制を構築した。



○法令等の遵守

- ・サイバーセキュリティ研修、コンプライアンス研修等を実施(再掲)
- ・ネットワークシステムのクラウド化により情報セキュリティ対策を強化

2 事業効果

○事業の取組

・自主事業の取組

新型コロナウイルスの拡大防止に留意し、リモートを導入するなどして、2件の企画を実施

・利用者サービスの向上に向けた取り組み

- ①パンフレットラックの設置、テナントの入退去に合わせた案内看板の更新等の改修工事を実施
- ②利用者の利便性向上のため、デジタルサイネージを設置するほか、wifiを提供
- ③施設の魅力向上のため、季節感を意識した装飾を実施したほか、望遠鏡を設置



・島しょの魅了発信への寄与

パンフレットコーナーやパネルコーナーを設置し、各島の情報や魅力を発信。

・利用促進へ取組

地域情報誌などでターミナルの魅力をPR

○ 利用の状況

- ・ 乗降客数 279,440人
- ・ 撮影合計 165件

○ 利用者の反応（アンケートの実施）

ターミナル全般に対する満足度について、満足・まあ満足が100%となり、高い評価を得ている。

○ 行政目的の達成

- ・ 都及び関係機関等との連携（新型コロナウイルス関係を除く。）

- ①警察署、海上保安部、利用船社等と連携して、定期的な意見交換のほか、防犯の観点からの施設点検、災害時対応訓練、合同警戒訓練や次年の2020東京大会に向けテロ対策訓練等を実施。防災・防犯体制の強化を図った。
- ②大規模改修工事に合わせて、パンフレットラックの設置や案内看板の改修等を実施。利用者の利便性の向上を行った。
- ③都によるデジタルサイネージの増設に併せて、自社設置のデジタルサイネージの改修を実施し、利用者の利便性向上を行った。



- ・ 都の実施策への協力

- ①都施工大規模改修への協力により、ターミナル機能の維持・円滑な工事進捗に寄与した。
- ②都実施の先端テクノロジーショーケーシング事業への協力  
実証実験の場として、施設を提供。  
開催に向けた事前の打ち合わせから参加。  
コロナ禍においても利用者の安全が確保できるよう実施方法の提案を行う他、設営・撤去作業にも積極的に協力。  
実験の目的であった「人と人との接触を減らして感染リスクを低減しつつ、安心・安全な受付案内業務の実施を支援する実証実験」のスムーズな運営に寄与した。



- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた自主的な取組

関係機関や各島から寄せられる周知看板をすみやかに掲示したほか、定期船運航事業者と連携してアルコール消毒液の設置、薬剤清掃の実施を行った。利用者のソーシャルディスタンス確保等の対策を行い、島しょ地域への新型コロナウイルス感染症の拡大防止に取り組んだ。

なお、本年7月には「各島の情報コーナー」を新たに設け、関係機関等から寄せられる様々な情報をワンストップで閲覧できるようにした。

- ①関係機関等寄せられる注意・周知事項について、積極的に協力を行った。
- ②離島各島からの周知依頼等に積極的な協力、各島の意向を踏まえた旅客への案内を実施  
効果的な場所に情報コーナーを設置、定期船運航事業者と協力し、利用者への周知を実施
- ③1日2回以上、人の手が触れる箇所に薬剤を使った拭き取り清掃を実施



・新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた都事業への協力取組

①施設内でのPCR検査実施への協力

おがさわら丸乗船者に向け実施されたPCR検査(施設内での検体採取を実施)においては、関係機関や定期船運航事業者と実施に向けた綿密な調整を実施。施設備品の貸出し、実施方法・実施場所の提案、設営撤去の補助など、積極的に協力し、報道関係者なども多数集まる中、スムーズな実施に寄与した。

②施設内PCR検体回収への協力

上記①による施設内での検体採取が終了後(約2か月継続)、別の場所で採取した検体を事前持ち込みの方法に手法が変更された。

検体回収場所が施設内であるため、備品の貸出し・警備等運営に協力。



3 収支状況 (単位：千円)

項目	金額 (税込)
収入 指定管理料	273,107
支出 管理運営費	250,014
収支差	23,093